

(電子メール施行)
農技第 1369 号
令和3年8月18日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

令和3年度病虫害発生予報第4号を發表します。

令和3年度病虫害発生予報 第4号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	いもち病(穂いもち)	やや多	平年並～やや多
	紋枯病	平年並	やや少
	縞葉枯病	平年並	平年並
	細菌性病害 (もみ枯細菌病・内穎褐変病)	やや多	—
	ヒメトビウンカ	やや多	平年並
	ツマグロヨコバイ	やや多	平年並
	トビイロウンカ	平年並	やや少
	斑点米カメムシ類	やや多	平年並
	イネツトムシ	平年並	やや少
	コブノメイガ	平年並	やや少
	ダイズ	立枯性病害	平年並
べと病		やや多	平年並
葉焼病		平年並	少
ハスモンヨトウ		平年並	やや少
ハダニ類		やや多	平年並
吸実性カメムシ類		やや多	平年並
ナシ	黒斑病	平年並	やや少
	黒星病	平年並	やや少
野菜共通	ハイマダラノメイガ	多	やや多
	ハスモンヨトウ	やや多	やや多
	シロイチモジヨトウ	やや多	やや多
果樹共通	果樹カメムシ類	平年並	平年並

* 気象の概況

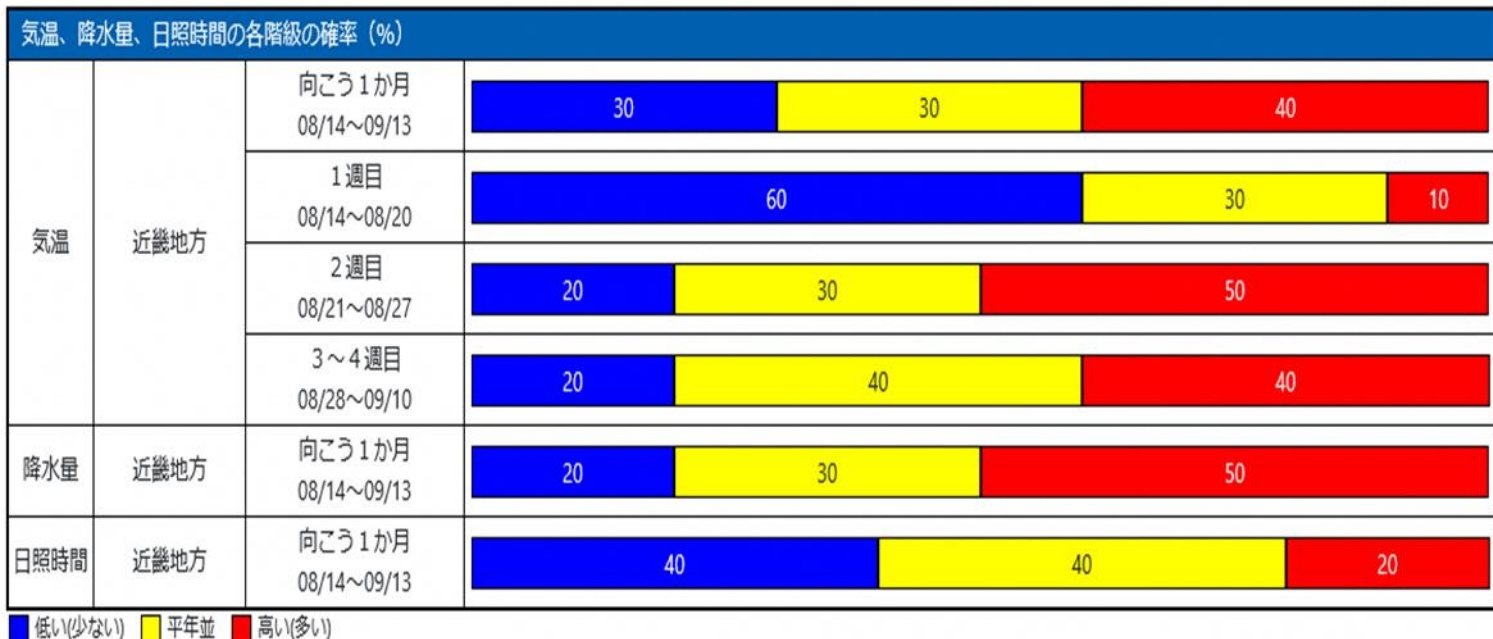
近畿地方 1か月予報

(8月14日から9月13日までの天候見通し)

令和3年8月12日
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報(08/14~09/13)		
2021年8月12日 14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は気温の変動が大きく、1週目は気温がかなり低くなる見込みです。	
向こう1か月 08/14~09/13	天候	期間のはじめは、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。その後は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 08/14~08/20	気温	1週目は、低い確率60%です。
2週目 08/21~08/27	気温	2週目は、高い確率50%です。
3~4週目 08/28~09/10	気温	3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。



* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【いもち病】（穂いもち）

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並～**やや多**
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）では、葉いもち^{ほじょう}は発病株率100.0%（平年値53.8%）とやや多い発生が確認されている。7月下旬の現地調査での発生圃場率は早期水稻で11.3%（同17.4%）、普通期水稻で23.9%（同19.3%）と平年並～やや多い発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多い、日照時間は少ない～平年並と予想されており、本病の発病に助長的である。上位葉に葉いもちが多発した場合は高い確率で穂いもちが発生するので、多発した地域では特に注意する。

ウ 本種の発生状況の詳細については、令和3年度病害虫発生予察防除情報第4号（令和3年8月17日付）を参考にすること（HPに掲載）。

(3) 防除上の留意点

ア 穂いもちの伝染源である葉いもちの発生量は平年並からやや多いことから、本病の常発地、谷間や山陰^{あいかげ}など日陰になりやすい圃場などは特に注意が必要である。このような圃場や葉いもちの病斑が上位葉にみられた圃場では、穂いもちの発生に留意し、状況に応じて薬剤散布を実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【紋枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）では、3.9%（平年値14.0%）とやや少ない発生が確認されている。7月下旬の現地調査でも早期水稻の発生圃場率6.5%（同8.0%）とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されており、本病の発生が助長され、平年並の発生になると考えられる。

3 【縞葉枯病】

- (1) 予報の内容 発生量： 平年並
(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）ではわずかに発生が確認されている。7月下旬の現地調査では発病株率0.8%（平年値0.8%）、早期水稻の発生圃場率8.1%（同6.5%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いとされており、本病を媒介するヒメトビウンカの増殖が進むと考えられるが、本病の感染最盛期は過ぎており、このまま平年並の発生で推移すると考えられる。

4 【細菌性病害】（もみ枯細菌病・内穎褐変病）

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 本病の主要な感染期間は出穂期から出穂2、3日後までの短い期間であり、このころの高温・多湿条件に遭遇しやすい普通期の品種では発生しやすい。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されており、本病の発生が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本病は籾のみに発生する難防除病害であり、発生後の防除は困難である。本病は籾の開花直後に感染するため、出穂期直前から開花期までの薬剤散布が望ましい。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

5 【ヒメトビウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）における8月上旬のすくい取り調査（10回振り）では、成虫4.0頭（平年値10.4頭）、7月下旬の朝来市（北部農技内）では成虫10.5頭（同6.6頭）、幼虫9.0頭（同2.3頭）と平年並の発生であった。また、現地調査では広い地域で発生が確認されており、発生圃場率は早期水稻で27.4%（同34.6%）、普通期水稻で15.2%（同31.8%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はイネ縞葉枯病を媒介する。現在、発病株が目立つ圃場ではウイルス保毒虫が増加し、後期感染と翌年の多発につながるおそれがあるので、今後の基幹防除や収穫後の耕うん等で、ヒメトビウンカの密度を下げることが重要である。

イ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

6 【ツマグロヨコバイ】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 予察灯における7月の合計誘殺数は、南あわじ市（淡路農技内）で50.7頭（平年値38.8頭）、朝来市（北部農技内）で5.0頭（同17.8頭）であった。

イ 7月下旬の現地調査（すくい取り10回振り）では成虫0.8頭（同1.0頭）、幼虫0.5頭（同0.3頭）と平年並の発生であった。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 多発すると、茎葉の退色やすす病の発生など被害が生じることがあるので、適期に防除を行う。

イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>

7 【トビイロウンカ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置している予察灯への誘殺はまだ確認されていない。7月下旬の現地調査では一部の圃場で発生が確認されている。

イ 海外飛来性である本種は気流によって、中国大陸から飛来する。同じく気流で飛来するセジロウンカは、現地調査で平年並の発生がみられている。また、近隣府県で本種の発生が確認されているところもあるため、今後の発生に注意する。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、秋にむけて増殖が進み、平年並の発生になると考えられる。

8 【斑点米カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 県下3か所に設置している予察灯の7月の合計誘殺数は加西市（農技センター内）で88.0頭（平年値589.6頭）、南あわじ市（淡路農技内）で261.0頭（同568.0頭）、朝来市（北部農技内）で11.0頭（同139.4頭）とやや少ない誘殺であったが、これまで予察灯ではみられなかった、ミナミアオカメムシやイネカメムシの誘殺が認められている。

イ 7月下旬の現地調査では、出穂の有無にかかわらず本田で発生が確認されている。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖に好適な条件となり、発生はやや多くなると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 出穂期までに生息場所である圃場周辺(畦畔等)の除草を行い、生息密度の低下を図ること。ただし、出穂直前と出穂後の畦畔除草は、水田へのカメムシ類の侵入を助長するので避けること。

イ 農薬散布は出穂期以降に実施すること。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針(兵庫県農薬情報システム)

(<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>)

9 【イネツトムシ】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場(加西市)で発生は確認されていないが、現地圃場で発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、平年並の発生になると考えられる。

10 【コブノメイガ】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県下3カ所に設置している予察灯への成虫の飛来は確認されていない。8月上旬の場内圃場(加西市)でも発生は確認されていないが、現地圃場で発生が確認されている。

イ 今後1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、平年並の発生になると考えられる。

ダイズ

1 【立枯性病害】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場(加西市)で発生は確認されていない。7月下旬の現地調査では発病株率0.1%(平年値0.2%)とやや少ない発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。本病は圃場の土壌水分が高くなることで発病するので、平年並の発生になると考えられる。

2 【べと病】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場(加西市)で発生は確認されていないが、7月下旬の現地

調査では発病株率2.8%（平年値1.0%）、発生圃場率11.1%（同10.1%）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されている。降雨による多湿で、本病の発生が助長され、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 密植・過繁茂の圃場で発生が多いので、茎葉や枝の切除をして風通しを良くする。

イ 圃場に伝染源を残さないように、被害葉は圃場外に持ち出し、適切に処分する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【葉焼病】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 場内圃場（加西市）および現地調査とも発病は確認されていない。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されている。本病は高温性の病害であるため、気温の上昇により発病が助長され、平年並に発生すると考えられる。

4 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容

発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）で発生は確認されていないが、現地調査でわずかに発生が確認されている。

イ これから本種の最盛期を迎えるので、注意が必要である。

ウ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、平年並の発生になると考えられる。

5 【ハダニ類】

(1) 予報の内容

発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）の調査では白大豆で10株あたり14頭（平年値9.3頭）の発生が確認されている。7月下旬の現地調査でも0.2頭（同0.3頭）と平年並の発生が確認されている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 薬剤散布を行う場合は、薬液がハダニ類の生息している葉の裏に十分かかるように行うこと。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

6 【吸実性カメムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の場内圃場（加西市）では発生は確認されていない。7月下旬の現地調査では10株あたりの虫数1.2頭（平年値0.2頭）、発生圃場率は27.8%（同11.4%）であった。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、カメムシ類の活動が活発になり、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア 着莢期に成虫が飛来し、吸汁や産卵をする。成虫は好適な餌がある場所を求めて移動するが、卵からふ化した幼虫はそのまま滞在し、黄熟期まで加害し続けるため、薬剤散布は着莢期から10日間隔で2～3回実施する。

イ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

ナシ

1 【黒斑病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の朝来市（北部農技内）の調査及び現地調査で発生は確認されていないが、関係機関の調査では一部地域で発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されており、気温の上昇と降雨による多湿で、本病の発生が助長され、平年並の発生になると考えられる。

2 【黒星病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の朝来市（北部農技）の調査及び現地調査で発生は確認されていないが、関係機関の調査では一部地域で発生が確認されている。

イ 今後1か月の気象予報によると、気温は平年より高く、降水量は多いと予想されており、降雨による多湿で、本病の発生が助長され、平年並の発生になると考えられる。

野菜共通

1 【ハイマダラノメイガ】（アブラナ科野菜）

(1) 予報の内容 発生量：多

(2) 予報の根拠

ア 加西市（農技センター内）で実施している誘致植物^{※1}（クレオメ）での調査では、6月上旬から幼虫の発生が確認されている。7月以降、寄生花枝率^{※2}は増加傾向を示しており、7月下旬の寄生花枝率は47.0%（平年値14.0%）と多発年であった昨年（52.0%）とほぼ同等で、その後も平年より高い状態が続いている。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件となり、多い発生になると考えられる。

ウ 本種の発生状況の詳細については、令和3年度病害虫発生予察注意報第2号（令和3年8月12日付）を参考にすること（HPに掲載）。

※1 対象とする害虫が好む植物で、発生状況を調べるために用いられる。

※2 クレオメは頂部に花が咲く分枝（花枝）を連続して展開する。ハイマダラノメイガの発生予察では、この花枝を調査単位としている。

(3) 防除上の留意点

ア 本種はアブラナ科野菜を特異的に加害する。

イ 発生盛期である8月中旬～9月下旬頃に育苗や播種・定植をする場合は、本種による加害が起こることを前提とした防除に努める。

ウ 幼虫が生長点を加害するため被害が大きく、被害を確認してからの防除では手遅れとなるため、育苗期や定植直後の予防的防除に努める。

エ 播種・定植時や育苗期に、粒剤や灌注で薬剤処理をした場合でも、その後の被害発生に注意する。天候等の条件により期待した防除効果が得られないこともあるので、本圃での^{ほんぼ}薬剤防除の準備をしておくことが望ましい。

オ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

2 【ハスモンヨトウ】

(1) 予報の内容 発生量：やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～8月2半旬までのフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で575.2頭（平年値507.7頭）、南あわじ市（淡路農技内）で268.2頭（同86.1頭）であり、平年よりやや多い状態で推移している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本種の増殖に好適な条件になることと本種の発生最盛期を迎えるため、野菜類での被害の発生に注意が必要である。

(3) 防除上の留意点

ア ピーマン、ナス、キャベツ、レタスをはじめ多くの野菜類を加害する。

イ 卵塊や集団でいる若齢幼虫を見つけたらすみやかに捕殺する。

- ウ 中齢以降の幼虫には、薬剤による防除効果が低くなるので、早期発見に努め、若齢期の防除を徹底する。
- エ 薬剤防除を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

3 【シロイチモジヨトウ】

- (1) 予報の内容

発生量：やや多

- (2) 予報の根拠

ア 7月1半旬～8月2半旬までのフェロモントラップの合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で98.9頭（平年値74.8頭）、南あわじ市（淡路農技内）で484.5頭（同214.5頭）であり、平年よりやや多い状態で推移している。

イ 今後の1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、これまで幼虫の発生は確認されていないが、本種の増殖に好適な条件になるため、野菜類での被害の発生に注意が必要である。

- (3) 防除上の留意点

ア 本種の加害植物は、ネギをはじめキャベツ、ピーマン、ナス、レタス等、多くの野菜類のほか、豆類、花き類など広い範囲に及ぶ。

イ 本種は茎葉の柔らかい部分を好んで食害する性質があり、定植直後の被害には特に注意すること。

ウ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考にし、農薬使用基準を遵守すること。また、同系統の薬剤の連用は避ける。

病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

果樹共通

1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予報の内容

発生量：平年並

- (2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は裏年（発生の少ない年）に該当する。7月のフェロモントラップ（チャバネアオカメムシ）の合計誘殺数は、加西市（農技センター内）で13.9頭（裏年平均26.9頭）、朝来市（北部農技内）で79.9頭（同105.4頭）であった。

イ 今後1か月予報によると、気温は平年より高いと予想されており、8月以降は次世代成虫の出現期を迎えることから、ナシ、カキ、ブドウ等の果実への被害の発生に注意が必要である。

* この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載

<http://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>